

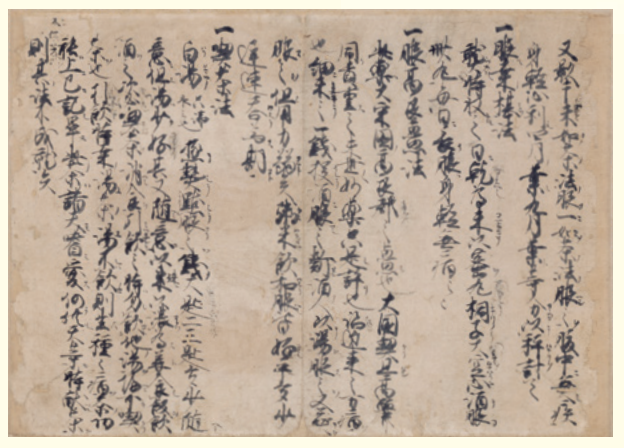
京都ゆかりの茶の湯の名品が勢ぞろい

第1章 喫茶文化との出会い

奈良時代に中国からもたらされた喫茶文化。日本と喫茶文化の出会いを語る資料を紹介しします。



— 建仁寺開山・栄西禪師が喫茶の風習を日本に伝えた書



「喫茶養生記」断簡 京都・建仁寺 〔通期展示〕

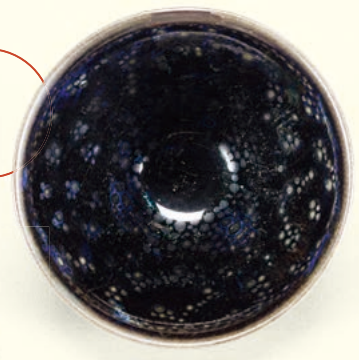
第2章 唐物賞玩と会所の茶

茶の栽培が盛んになるにつれ、唐物を賞玩する茶や、社寺の門前で参詣者に茶を振る舞う一服一銭が生まれました。

— 信長が手にしていたと伝わる中国・南宋時代の禅僧の手による水墨画



重要文化財 遠浦船帆図 伝牧谿筆 京都国立博物館 〔後期展示〕



国宝

— 四〇〇年、禅の心をつたえてきた名碗

国宝「曜変天目」 京都・龍光院 〔10月8日、23日展示〕

国宝「桃鳩図」(伝徽宗筆)も登場！ 11月3日(祝)〜6日(日)の4日間のみの限定公開となります。



重文

重要文化財 「茉莉花園」 伝趙昌筆 常盤山文庫 〔後期展示〕 足利将軍家 旧蔵の名品

第3章 わび茶の誕生と町衆文化

町衆文化の隆盛のなかで、日々の暮らしのなかにある道具を用いたわび茶が生み出されました。



— 秋の京都洛北の高雄で茶を楽しむ人々の姿



国宝 「観楓図屏風」 狩野秀頼筆 東京国立博物館 〔10月8日、23日展示〕 (画像提供東京国立博物館)

中国からもたらされた茶を喫する文化は、時代を経ながら徐々に和様化し、「茶の湯」という独自の文化を生み出しました。今では茶の湯は日本文化を象徴するものとして、世界で広く認識されるようになってきました。本展では、千年以上も日本の中心でありつづけ、今もなお茶の湯が生きる京都において、この地ゆかりのある各時代の名品約二〇〇件を通して、京の茶の湯文化を紹介しします。



重文

重要文化財「豊臣秀吉像」 玄圃雲三等賛 滋賀・西教寺 〔前期展示〕

第4章 わび茶の発展と天下人

千利休がめざしたわび茶は、織田信長、豊臣秀吉といった天下人も魅了しました。武将らがこぞって収集した名茶器の数々をご堪能ください。



重文

重要文化財 「大井戸茶碗」 銘筒井筒 〔通期展示〕

秀吉愛用とされる 天下の名碗



重文

重要文化財「千利休像」 伝長谷川等伯筆／古溪宗陳賛 正木美術館 〔後期展示〕

— 利休の存命中に描かれた唯一の肖像画

第5章 茶の湯の広まり 大名、公家、僧侶、町人

武家、公家、僧侶、町人など、それぞれにおいてかたち作られ発展した茶の湯を、独自の茶道具などを通して紹介しします。



重文

野々村仁清の手による華やかな茶壺

重要文化財 「色絵若松園茶壺」 野々村仁清作 文化庁 〔通期展示〕



国宝

— 桃山茶陶の代表作

国宝 「志野茶碗 銘卯花壇」 三井記念美術館 〔通期展示〕

第7章 近代の茶の湯 数寄者の茶と教育

明治の文明開化の荒波のなか、多くの茶道具が海外に流出しました。その一方、近代数寄者たちの間では茶の湯が流行し、学校教育にも導入されました。



重文

重要文化財 「色絵鱗波文茶碗」 野々村仁清作 北村美術館 〔通期展示〕

第6章 多様化する喫茶文化 煎茶と製茶

江戸時代、中国から煎茶がもたらされたことにより、喫茶文化はさらなる変化を遂げました。喫茶文化の多様化を、宇治地域での製茶技術の向上の様子とあわせて紹介しします。



— 萬福寺開山・隠元禪師 愛用の茶器

〔紫泥茶罐 宜興窯〕 京都・萬福寺 〔通期展示〕